

2021年3月15日

茨城県知事 大井川 和彦 様

県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会

代表 荒川 照明 電話 090-9845-7019

日立市台原町 2-10-10

新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策（令和3年2月）に

関する異議申し立て

先日2月15日に「日立市議会産廃特別委員会」で県の新たな方針が報告されましたが、その主な内容は、『油縄子交差点、梅林通りからの搬入は行わず、山側道路からの新設道路を通して搬入するとの大幅な計画変更』（参考資料(1))です。新処分場までの距離が2km以上の新設道路の設置計画や実現可能性などについて具体的な説明はまだありません。道路用地の買収や建設工事の費用は巨額になり、自然環境への影響も著しいものになることでしょう。なお進入路が変わっても、日立市街地を南北に通る国道6号に発生する産廃運搬車による交通・生活環境への悪影響などは相変わらず続くでしょう。

ともかく大幅な計画変更があったのだから、『昨年6月の住民説明会資料（参考資料(2))に提示された整備候補地の選定は、再度評価をやり直してその結果を修正すべき』で、住民説明会も初めからやり直すべきです。しかし、この度提示された整備スケジュール（参考資料(1))によると、「新設廃棄物処分場の基本計画」さえも全く提示されないまま、この3月一杯で住民説明会が打ち切れ、その後は「県の思惑のまま、基本計画・基本設計が開始される」とのことです。

また、【日立市の整備受け入れの回答をいただいた後、新処分場の基本計画を策定していきます。】とあたかも規定事実のように明記して、暗に日立市の早期回答を迫っております。建設予定の処分場自体の施設や構造計画については、施設計画の概要（エコフロンティアかさまの施設配置図のみ）さえも一切提示されないままでは、県に白紙委任などできません。

先日の「日立市議会産廃特別委員会」を別の部屋で傍聴しましたが、県の新たな方針の説明を聞くだけで、廃棄物処分場の建設計画についての実質的な審議はなされたのでしょうか。来る3月17日開催予定の「産廃特別委員会」では、実質的な審議は殆ど成されないまま、一括可決され兼ねません。日立市に対して、新廃棄物処分場がどのようなものかを示す基本計画さえも明確にされないまま、『日立市長は回答期限に迫られて、日立市諏訪町の候補地に新産業廃棄物最終処分場の設置を受諾してしまう』ものと危惧されます。

新産業廃棄物処分場の候補地は「唐津沢」という鮎川の上流で、地形的に水が溜まり流れる場所です。私どもは機会あるごとに、「水の通り道にゴミを埋め立てることは避けるべき」と訴えておりますが、未曾有の洪水時の具体的な防災対策に関する説明はどこにも見当たらず、これで危機回避ができるのか不安で心配になります。

広大な沢地の谷間に巨大な廃棄物処分場を設けるには、洪水時の防災対策が容易ではなく、建設技術面でも非常に難しく、建設工事には平坦地に設ける場合の何倍もの費用をかけたとしても安心できるものにはなり得ません。したがっ

てまずは、本件のような広大な沢地の谷間に、どのような構造・規模の廃棄物処分場を建設するのか基本計画・工事費見積を実施し、建設計画の妥当性を十分に検証していただきたい。その結果が得られないまま、候補地を確定するようなことだけは絶対に避けてください。

日立市諏訪町の候補地の地形・性状は、エコフロンティアかさまのそれと大きく違います。巨大廃棄物処分場の建設実績があるからと言って、基本計画や住民説明会をないがしろにして事業を安易に進めないでください。『建設候補地ここに在りき』でこのまま行くと、いずれにしても事業計画が頓挫して再度大幅な計画変更を余儀なくされると予測されます。無謀な猪突猛進は大変危険です。

1. 新たな搬入ルート追加に基づく整備候補地の再評価の必要性について

令和2年6月の「住民説明会資料」（参考資料2）では、整備候補地の総合評価結果で○評価の数が最も多い（12個）とのことで、「日立市諏訪町」が整備候補地に選定されました。

しかし、この度「南側新設道路が追加され、大幅な計画変更があった」ので、別紙（表1）に示すように、再評価をすると「日立市諏訪町」の総合評価は○評価の数が3個で、3箇所の整備候補地で最も少なくなります。さらに、[整備可能地要件]の「外部搬入道路要件（2車線以上の幅員を有する道路からの直線距離画1km以内の区域内）」に違反します。

なお、整備候補地の選定「3. 事業効率性について」は、別紙（表2）に示すように、その不具合を少し詳しく考察しました。

概算整備費算出は、廃棄物処分場本体の概算工事単価および本体以外のその候補地に固有の設備の工事単価（ここでは下水道の概算工事単価）を用いて、3箇所の候補地について行われたと推察されます。3箇所の候補地とも同じ埋立容量で比較すべきですから、概算整備費は本体部分の工事費により差異は発生せず、本体以外の部分(下水道の距離)により差異が発生するはずですが、下水道の距離が約0.3 kmで最小の常陸太田市は、整備費が最小になり、事業利益は最大になるはずですが、日立市は、下水道の距離が約2.4 kmであり、整備はより大きいにも拘らず、事業利益は最大となっております。そして、「日立市諏訪町」は、事業効率性が最も高いとの烙印が押されました。

私どもの計算では、常陸太田市の概算整備費は160.31億円となりますが、利益を少なくするためか、表には約202億円と記載されています。その差額は41.69億円にもなります。なお、埋立容量は、日立市に比べて30万 m^3 小さくしているため、それだけでも事業利益を約14.8億円小さく見せかける効果があります。合計すると約56.5億円にもなりますので、常陸太田市の事業利益予測は日立市より約25.5億円も多くなることでしょう。

計算方法が意図的な情報操作であるならば、到底許容しがたいものです。「候補地ここにありき」の証拠を見せられたように思われる。この点は担当責任者に問いただしていただき、早急に正しい数字を示してほしい。

この度は、搬入道路の建設工事費が日立市諏訪町部分に加算されるべきですから、概算整備費の金額も変更してから、速やかに整備候補地の再評価を実施し

て、「日立市諏訪町」は整備候補地から外していただきたい。

2. 広い降水領域を有する広大な沢地の谷間に、巨大な廃棄物処分場を建設する

場合の洪水時の危険性について

設置計画中の廃棄物処分場については、エコフロンティアかさまの例を示すだけで、「どのような形状・環境の場所に、どのような構造・規模の処分場にするか」については、これまで全く提示されていません。エコフロンティアかさまの場所は、「台地状のところでは、廃棄物処分場を建設し易い」ですが、「広大な沢地の谷間に建設する場合は、洪水時の災害対策が難題で、設計・工事は著しく大変になるはず」です。なお、深い谷間を埋立して深皿状の廃棄物槽を建設する場合には、埋立部分は水分を多く含む地盤ですから、強い地震発生時には、埋立部分の土砂の液状化に伴う地盤の不等沈下による廃棄物槽の破損も起こると想定されます。

蛇足ながら、設置場所の形状・環境と廃棄物処分場の建設し易さの関係について説明させていただきます。

参考資料（3）を引用し、一般的な廃棄物処分場の機能の概念図を図1(a)に示す。これは廃棄物埋立処分後の状態を示し、降水や表流水は覆土層により排除して処分場内に留まらないようにするとともに、廃棄物槽内に貯まった浸出水は処理・排出させて、有害物質の環境への流出を低減化するものである。このような機能を実現するために、処分場は貯留機能、遮水機能および処理機能を有する構造であることが求められる。

廃棄物槽の内張であるライナーシステム・遮水工はそれ自体では剛性はないので、廃棄物槽の基盤は均質なものが望ましい。廃棄物槽の基盤の造成は、切土が望ましく、盛土や埋立はなるべくなら避けたい。水に弱い構築物なので、通常廃棄物処分場は地下水面より上部に設置される。

〔平坦地あるいは台地状のところに設置される場合〕

廃棄物処分場が平坦地あるいは台地状のところに設置される場合は(図1 (a)あるいは(b))、表流水や地下水の廃棄物槽への侵入はほとんどなく、廃棄物処分場の建設は比較的容易にできる。廃棄物埋め立て処分中で開放状態にあっても、周辺の雨水が廃棄物槽(廃棄物貯蓄容器)に流入するのを防ぐ対策は容易です。したがってこの場合は、特別な洪水時対策は不要である。

エコフロンティアかさまの場合には、図1 (b)に示すように台地状ところに建設されており、廃棄物槽に降った雨水は浸出水として処理され、廃棄物槽以外の敷地に降った雨水は防災調整池(約1.9万 m^3)に一時的に貯留される。

廃棄物槽は、既設の窪地を利活用して建設されおり、廃棄物処分場の建設は比較的安価にできたと思われる。台地状の地形のため、廃棄物槽には、外部から水が浸入するような心配はなく、管理・保全是比較的容易である。

〔沢の谷間あるいは窪地に設置される場合〕

この場合は、図1 (c)に示すように、集中豪雨時には廃棄物処分場の周囲の斜面を通過して降水が流れ込んで来るので、洪水対策が不可避で、著しく不適切な状態である。

図2に示すように、日立市諏訪町の唐津沢の流域（降水域）は広大で、1.25 km²にもなり、唐津沢の出口部分に当該建設予定地がある。候補地は採掘場跡で谷間の窪地にあり、そこに雨水・地下水が溜り広大な湖水となっている。洪水対策・環境保全に関しては、候補地の敷地内だけではなく沢全域の状況が密接に関係することが大きな特徴である。建設予定の敷地面積を28.6haと仮定すると、沢の面積は約4.3倍です。

カスリーン台風時、36時間に総雨量245.6mmの降雨があった場合（参考文献4）を参考にして、そこにエコフロンティアかさまと同程度の規模の処分場を建設する場合の集中豪雨時の洪水対策について検討した（別紙1）。

建設候補地には、集中豪雨時、唐津沢全域の降雨15万3,500 m³が流入すると想定されるので、防災対策は容易ではありません。その降雨を一時的に貯蓄する防災調整池は巨大なものを設置せねばなりません。フロンティアかさまの防災調整池の容積は1.9万m³ですから、比較の条件は異なるでしょうが、その約8倍にもなります。

廃棄物貯蓄槽のライナーシステム・遮水工それ自体で剛性を持っていませんので、支持基盤が軟弱だと困ります。埋立や盛土の支持基盤だと地震や洪水の災害に大変弱いはずです。

フロンティアかさまの例では、台地状の上面の強固な岩盤の窪地を有効に利用して廃棄物槽の基盤を建設しており、洪水災害の心配は全く無しに済んでおります。しかし、唐津沢のような広大な谷間では、広大な岸壁は降水時の表面流

が強く、壁面の崩壊による土砂崩れなどで、その近くには廃棄物槽の配置は避けねばなりません。広大な沢には、推定で水面積が約 7.3ha くらいの大きな湖ができています。湖水面は地下水位面としますと、廃棄物槽の基盤を建設するには、相当な埋立・盛土工事を要します。廃棄物槽は巨大なだけに、その扱いは大変難しくなると推察されます。この湖の一部を防災調整池として残すことも考えられますが、湖を区切る工事などは決して容易ではなく、膨大な工事費が掛かります。

広大な沢地の谷間に建設する場合は、洪水災害対策が難題で、設計・工事は著しく大変になることは確かです。二重苦、三重苦を乗り越えて報われない努力をして建設したとしても、沢周囲の壁面の崩壊などの不安・危険性は避けられません。なお、23 年間廃棄物を埋立てした後も 18 年間は管理するだろうが、廃棄物槽や処理施設の耐用年数を超過してしまうので、その後はどうなるか心配は尽きません。孫・子には申し訳が立たないような状況も起こり得ることでしょう。

このようないろいろな危険性を斟酌されて、一刻も早く候補地選定をやり直してください。願わくば、美しい湖水の姿を見せており、防砂ダムの役割をしっかりと果たしている「日立市諏訪町」の候補地を現状のまま保存し、ジオパークやナショナルホレストの運動を促進させながら、自然環境への恵みを楽しみたいものです。

3. 候補地選定の進め方についての要望

(1) この度『山側道路からの新設道路を通して廃棄物を搬入するとの大幅な計

画変更』があったので、再評価すると別紙（表1）のように、「日立市諏訪町」の総合評価は○評価の数が3個で、3箇所の整備候補地で最も少なくなります。なお、外部搬入道路要件（直線距離が1km以内の区域内）に違反します。したがって、早期に候補地選定をやり直して「日立市諏訪町」を候補地から外していただきたい。

(2) 別紙（表2）に示したように、整備候補地の選定 3. 「事業効率性について」は、概算整備費と事業利益予測の欄で、常陸太田市の金額に不審な点が見つかりました。常陸太田市の事業利益予測を小さく見せかけて、日立市の事業利益予測を目立たせるように工作されたと推察されます。「候補地ここにありき」の為の、情報操作と推察されますので、この点からも候補地選定は早期にやり直していただくようお願いします。その際には、搬入道路の建設工事費を本体以外の諏訪地区に固有な費用として「日立市諏訪町」の部分に加算し他の2候補地と比較してください。

(3) 別紙1に示したように、唐津沢に廃棄物処分場を建設する場合の集中豪雨時の洪水を想定しなければなりません。沢に建設することの危険性を認識して、少なくとも当該建設候補地について基本設計・工事費見積くらは提示してから、再度住民に説明していただきたい。

(4) 図2を見ればわかるように、唐津沢の建設候補地は多賀地区の市街地にまじかで、裏庭のようなところに位置しています。唐津沢の降水は処分場を経て、鮎川および桜川の水あるいは地下水となって、多賀地区の市街地に達し

ます。煤塵・臭気は山風に乗って直ちに運ばれ、多賀地区の住宅街に及ぼし、時間が経過するとともに住民の苦情が増大することになるでしょう。

- (5) 諏訪地区の候補地を撤回した後の利用は、唐津沢地に防災管理を施して、防災ダムの役目を果たしている美しい湖水や地層のわかる岸壁の環境を保存し、ジオパークやナショナルホレストの運動などの拠点として活用してほしい。 (文責：鈴木鐸士)

参考資料

- (1) 新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策について

令和3年2月 茨城県 (県HP 又は 当HPの資料リンク 参照)

- (2) 新産業廃棄物最終処分場の整備について住民説明会資料

令和2年6月 茨城県 (県HP 又は 当HPの資料リンク 参照)

- (3) 嘉門雅史・大峰聖・勝見武 (2010)：地盤環境工学 共立出版。

- (4) 本田尚正・川松由季：カスリーン台風による日立市宮田川の氾濫の検証

水工学論文集 第54巻 pp. 883-888 (2010)

添付資料

図1 : 設置場所の形状・環境と廃棄物処分場の建設のし易さの関係

図2 : 唐津沢降水域と整備候補地の位置説明図

表1 : 整備候補地の再評価の資料

表2 : 整備候補地の選定「3. 事業効率性について」意義申し立ての資料

別紙1 : 唐津沢内部に廃棄物処分場を建設する場合の集中豪雨時の洪水対策